



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Understanding How Online Travel Reviews Impact Young Chinese Tourists' Perceived Risk and Destination Visit Intention : A Longitudinal Study Pre-and During COVID-19 Era [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	孫, 涛
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(学術)
Dissertation Number	甲第14858号
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/85194
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Sun_Tao_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（国際広報メディア）

氏名：孫 涛

審査委員	主査	准教授	張	ジュヒョク
	副査	教授	中川	理
	副査	教授	伊藤	直哉

学位論文題名

Understanding How Online Travel Reviews Impact Young Chinese Tourists' Perceived Risk and Destination Visit Intention: A Longitudinal Study Pre- and During COVID-19 Era
(オンライン・クチコミが中国若者観光者の知覚リスクや目的地訪問意向に与える影響 –新型コロナウイルス流行前・中の調査比較の視点から–)

サービス産業の特徴として、サービスの無形性、不可分性、異質性、消滅性などの特徴により、他産業に比較する比較的リスクを多く含有しているという点を挙げるができる。リーマンショック等の経済危機だけに留まらず、新型コロナウイルス（COVID-19）の流行により、世界中の観光産業が被った打撃は、健康不安から始まり、社会に蔓延しているリスクに対して敏感に反応している実例となっている。このような特徴を背景に、多くの先行研究がコロナ渦進行状況に置かれた観光消費者心理を捉えようとしている。しかしながら、観光者の知覚リスクを多次元的に捉えようとする研究となるとその数は限定されており、実証的研究となるさらに数が絞られているのが実情である。

さらに、COVID-19 のパンデミックは、観光者の知覚リスクやその帰結である観光行動に影響を及ぼしているだけでなく、観光者の情報行動にも影響をもたらしている。COVID-19 の存在がはじめて世界保健機関（WHO）に報告されて以来、COVID-19 を巡るうわさ、デマ、フェイクニュース等がオンライン・オフラインにわたって途切れなく発信され続けられている。とくに、インターネットやソーシャルメディア上で流布する関連情報は、観光者に情報環境を構築し、特に消費行動に大きな影響を与えている。このように、観光者の意思決定に重要な役割を果たすオンライン情報やクチコミは、どのようなメカニズムで観光者の知覚リスクや行動意図に影響を与え、また予見されるのかという点を解明するのは注目に値する。とくに、COVID-19 の流行が与えた観光者の情報処理システムの変化に関する研究となると、さらに限られているというのが実情である。

本研究は、以上の COVID-19 を巡る研究課題の解決を研究目的としている。中国

人若者観光者を対象に、パンデミック前・中、二回に渡って実査を行い、観光者の知覚リスクや観光情報処理の特徴をリアルタイムで把握するデータを収集した。本研究においては、オンライン・クチコミの観光者知覚リスクや行動意図を解明するため、「精緻化見込モデル」と「ヒューリスティック・システムティック・モデル」という二つの態度変容モデルを援用し、研究仮設モデルを構築している。パンデミック前・中の時間軸を設定したデータ収集をもとに、本研究は以下の三つの研究課題が設定されている。①平常時、オンライン・クチコミは観光者の知覚リスクや目的地訪問意向にどのように影響するか。②パンデミック時、オンライン・クチコミは観光者の知覚リスクや目的地訪問意向にどのような影響を与えているか。③ COVID-19 の知覚は、観光者の知覚リスクや目的地訪問意向にどのような影響を与えているのかの三点である。本論考は、このような研究課題に対しての検証が行われている。このような本論考の研究成果に対して、博士論文審査委員会では以下のような質疑応答が行われた。

リスク概念は本来多様な構成概念であり、リスク事象の特性がリスク概念の構造に反映されやすいという特色を有している。多様なリスク概念をパンデミック状況に的確に適合させ、十分な信頼性と妥当性のある検証を行ったことに関しては大きな評価に値する。また、リスク概念を巡って興味深い結果も出ており、仮説の指示された部分、指示されなかった部分に関して、審査委員会と博士論文申請者の間で質疑応答が繰り返された。博士論文申請者からは適切な回答がなされ、審査委員会一同は、この回答に対して了解し、納得したことを述べておく。

以上の審査結果をもとに、本論考に対して審査委員会は慎重な議論と検討を行った結果、本研究の学問的意義、本論考の方法論的信頼性と妥当性は十分であり、学問的貢献、実務的貢献においても、その意義や波及効果は十二分に高いものと判断した。そこで、本審査委員会は、本研究を北海道大学博士（国際広報メディア学）に相応しい学術論文であることを全会一致でここに認め、その結果をここに報告するものであります。